

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2026年 第9週（2月23日～3月1日）

今週のコメント

～インフルエンザ～ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用が重要

定点把握感染症

「インフルエンザ 2週連続減少」

第9週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は1,554例であり、前週比13.8%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、RSウイルス感染症、流行性角結膜炎、咽頭結膜熱の順で、定点あたり報告数はそれぞれ5.33、1.55、0.66、0.29、0.25である。

感染性胃腸炎の報告数は前週比13%減の986例で、中河内10.47、大阪市西部7.30、南河内7.13、大阪市南部5.88、北河内5.74であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は22%減の287例で、泉州2.60、南河内1.93、中河内1.89である。

RSウイルス感染症は8%減の123例で、大阪市北部1.38、泉州0.95、北河内0.91であった。

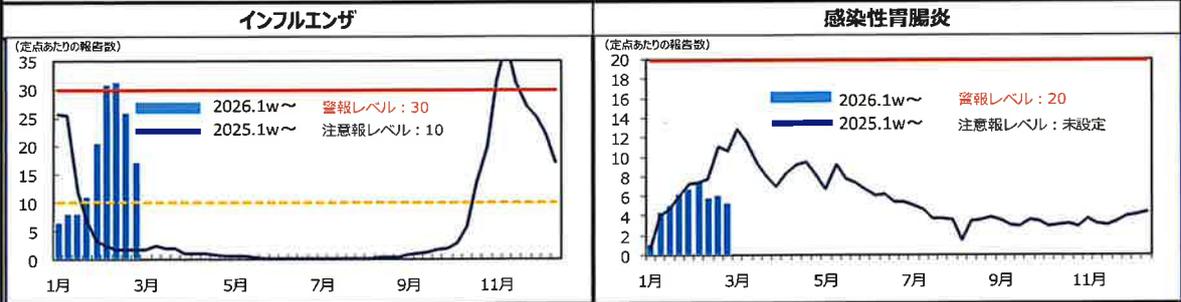
流行性角結膜炎は増減なしの15例で、大阪市西部1.00、中河内0.60、豊能・堺市0.40である。

咽頭結膜熱は19%減の46例で、南河内・中河内0.53、泉州0.50であった。

インフルエンザは34%減の5,018例で、定点あたり報告数は17.30である。南河内24.13、北河内21.26、中河内21.14、大阪市西部20.00、大阪市北部19.30であった。全11ブロックで前週と比べ減少している。

新型コロナウイルス感染症は20%減の166例で、定点あたり報告数は0.57である。堺市0.92、豊能0.88、泉州0.70、北河内 0.66、大阪市東部0.65であった。

急性呼吸器感染症（ARI）は26%減の12,483例で、定点あたり報告数は43.04である。南河内58.91、北河内51.08、大阪市北部50.75、泉州47.73、中河内47.45であった。



※2025年第15週以降、定点医療機関数の変動により、警報レベル・注意報レベルの数値は参考値

表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2026年 第9週2月23日～3月1日）

第9週の順位	第8週の順位	感染症	2026年 第9週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2025年 第9週の 定点あたり 報告数	2026年第9週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	5.33	13%減	10.61	1歳_13%
2	2	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.55	22%減	0.94	10-14歳_16%
3	3	RSウイルス感染症	0.66	8%減	1.82	1歳未満_33%
4	5	流行性角結膜炎	0.29	増減なし	0.15	20歳以上_80%
5	4	咽頭結膜熱	0.25	19%減	0.25	1歳_20%
参考		インフルエンザ (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	17.30	34%減	1.75	10-14歳_21%
参考		新型コロナウイルス感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	0.57	20%減	2.85	1-4歳_14%
参考		急性呼吸器感染症 (急性呼吸器感染症定点報告疾患)	43.04	26%減	-	1-4歳_29%

2025年第15週から急性呼吸器感染症(Acute Respiratory Infection : ARI)サーベイランスが開始となりました。

2025/26年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

各疾患の詳細は、大阪府感染症情報センターホームページ（[定点把握疾患](#)、[疾患別情報](#)、[病原体検出情報](#)）をご覧ください。

第9週のコメント

～A型肝炎～ 2026年は9週時点で昨年累計報告数の半数に達しています。
ワクチン接種で予防可能な感染症です。

全数把握感染症																							
A型肝炎																							
<p>A型肝炎は、A型肝炎ウイルス感染による疾患である。ヒトからヒトへの直接的な接触（糞口感染）、または汚染された食品や水の摂取によって感染する。冷凍してもウイルスは不活化されず、氷や冷凍食品を介して感染する可能性がある。また、性交渉によって感染することもある。潜伏期は2～7週間であり、発熱、倦怠感などに続き、肝機能障害、食思不振、嘔吐、黄疸、肝腫大、灰白色便を認める。1～2カ月の経過の後に自然回復するが、まれに劇症化することがある。ワクチン接種が有効とされ、接種後、抗体獲得率は、95%以上である。感染防御効果は数年以上続くと言われている。</p> <p>A型肝炎 (Hepatitis A) [厚生労働省 検疫所] 食品を介したウイルス感染症 (大阪健康安全基盤研究所)</p>	<p>年別累積報告数（大阪府）</p> <table border="1"> <caption>年別累積報告数（大阪府）</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>累積報告数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2017</td><td>12</td></tr> <tr><td>2018</td><td>50</td></tr> <tr><td>2019</td><td>23</td></tr> <tr><td>2020</td><td>7</td></tr> <tr><td>2021</td><td>3</td></tr> <tr><td>2022</td><td>6</td></tr> <tr><td>2023</td><td>2</td></tr> <tr><td>2024</td><td>6</td></tr> <tr><td>2025</td><td>8</td></tr> <tr><td>2026</td><td>4</td></tr> </tbody> </table> <p>～9w</p>	年	累積報告数	2017	12	2018	50	2019	23	2020	7	2021	3	2022	6	2023	2	2024	6	2025	8	2026	4
年	累積報告数																						
2017	12																						
2018	50																						
2019	23																						
2020	7																						
2021	3																						
2022	6																						
2023	2																						
2024	6																						
2025	8																						
2026	4																						

表 2. 大阪府全数報告数（2026年 第9週2月23日～3月1日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】>全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 () 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
4 類感染症	A型肝炎	1								1	4
	デング熱	1								1	2
	レジオネラ症（肺炎型）	2			1					1	20
5 類感染症	ウイルス性肝炎	1							1		2
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2				1				1	13
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1			1						11
	侵襲性肺炎球菌感染症	3		1		1			1		53
	梅毒	8	2							6	170
百日咳	2			1				1		86	
結核 (2025年12月分)	結核 新登録患者数：88名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 27名) (府内累積報告数 1,176名、内 肺・喀痰塗抹陽性 405名)										

(2026年3月3日 集計分)